

平成30年度病害虫発生予察 特殊報第1号

平成30年7月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

1 害虫名 タバコノミハムシ *Epitrix hirtipennis* (Melsheimer)

2 発生作物 ナス、ジャガイモ

3 発生経過

平成29年9月に大分県内の有機栽培ナス圃場において葉を食害する微小な甲虫が確認され、現地で発生していた個体を当部病害虫対策チームで確認したところ、タバコノミハムシであった。本虫の本県での発生確認は初めてであり、九州における初確認でもある。その後平成30年5月にジャガイモでも確認された。

4 県内の発生状況

- 1) 初確認年月日：平成29年9月26日（ナス）、平成30年5月15日（ジャガイモ）
- 2) 発生確認地域：大分県中部および南部（臼杵市、豊後大野市）
- 3) 発生確認面積：1.5a

5 発生生態と被害状況

1) 形態

成虫は体長1.5～2.5mm、長楕円形でやや扁平であり、上翅は密な短刺毛に覆われやや光沢のある赤褐色で、中央部に不明瞭な黒斑を持つ。また後腿節は肥大している（図1）。

2) 生態

本種はタバコ及びナス、ジャガイモ、ホオズキ等のナス科植物を寄主とし、特にアメリカ合衆国ではタバコの重要害虫とされているが（Semtner, 1984）、国内ではタバコの被害は未確認で、ナス、トマト、ジャガイモ、ホオズキ、ワルナスビ等のナス科作物から見出されている（原田・滝沢, 2012）。

卵は地表に産み付けられ、幼虫は地下部を食害し、地表部付近で蛹化することが知られている（Dominick, 1971；Lykouressis, 1991）。

国内における詳細な生活史は明らかではないが、関東地方では5月～11月に発生することが知られている（愛知県特殊報第4号, 2016）。

3) 被害状況

本種の成虫は葉の片側の表皮を残して葉肉を食害したり、葉を貫通して食害したりするため、表皮を残して広く食害されたり、直径1～2mm程度の多数の小さな白い点状の食害痕や丸い穴が観察される（図2～4）。

6 国内での発生状況

本虫は2011年に群馬県で初確認され、その後関東地区を中心に報告され、2016年以降は東海地区でも特殊報が発表され、分布を拡大している。

なお、本州では、分布を拡大しつつある外来植物のハコベホオズキ *Salpichroa origanifolia* (Lam.) Baill. で多発生した事例が報告されており（末長・南，2017）、ハコベホオズキは大分県には未侵入と思われるが、今後の分布拡大に伴い県内に侵入した場合は、ハコベホオズキにおける本虫の発生・分布の拡大にも注意を要すると思われる。

7 防除対策

2018年5月現在本種に対する登録農薬はないが、本県の事例に加えて他県の特殊報での事例でも主に有機栽培や減農薬栽培の圃場で発生しており、通常の防除を行えば併殺されると思われる。また、本種が寄生しているナスの栽培終了時には、近隣のナス科作物へ本種が移動しないように作物残渣を速やかに処分する。

（参考文献）

1. Dominick, C. B. (1971) J. Econ. Entomol. 64: 88-89.
2. Lykouressis, D. P. (1991) Entomol. Hellenica 9: 81-85.
3. Sementner, P. J. (1984) J. Econ. Entomol. 77: 98-102.
4. 原田晴康・滝沢春雄（2012）日本における侵入害虫タバコノミハムシの発生. 応動昆. 56: 117-120.
5. 愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室（2016）平成28年度病害虫発生予察特殊報第4号 タバコノミハムシ
6. 末長晴輝・南雅之（2017）ハコベホオズキからタバコノミハムシを採集. SAYABANE New Series 25: 23-24.

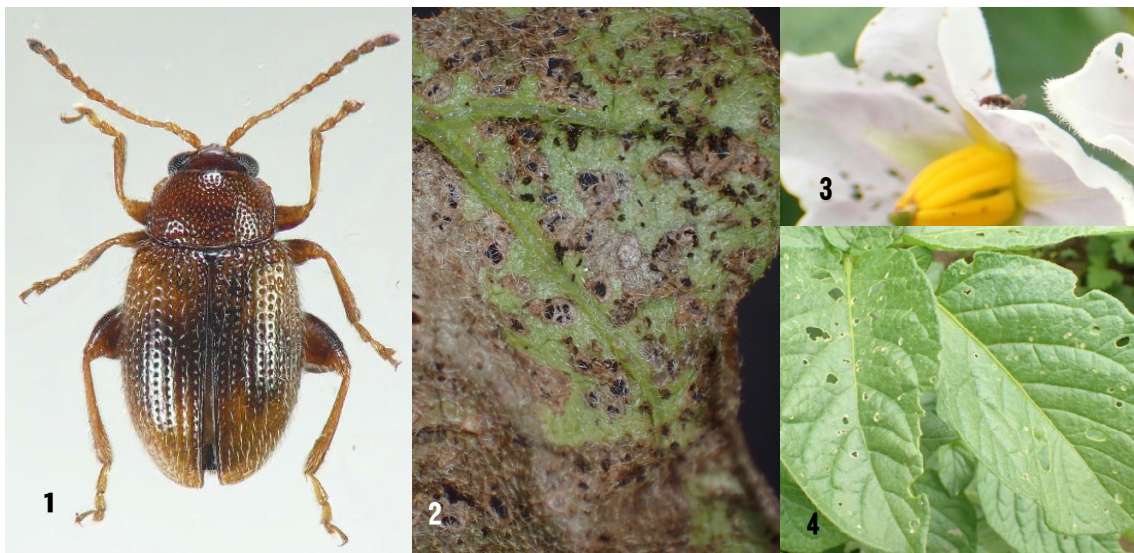


図1 雄成虫

図2 ナス被害葉

図3、4 ジャガイモ被害